

3 階

(1) 窓のない階

大天守の 3 階は「隠し階」「暗闇重」とも呼ばれ、2 階屋根の枠の中に隠れるように作られている。乾小天守の 3 階も同じような構造になっている。

この階の用途は不明だが、物置や攻撃時の避難場所として使われた可能性がある。3 階の柱や梁の多くは手斧で荒く仕上げられ、貝殻や魚の鱗のような模様が描かれている。

また、天井の高さが低いため、天井の板と板の間の隙間を埋めるための小さな栈木を見ることができる。これは天井の強度を高め、ゆがみを防ぐためのものである。4 階へ上がるための開口部もあるが、その用途は謎である。

4 階

(1) 城主の居室

4 階で最も広い部屋は、籠城の際の城主の臨時的居室として使用されたと考えられている。下層階に比べ天井が高く、柱には檜材が使われるなど、豪華な内装が施されている。藩主の部屋は、簾で仕切られ、他の階とは区別されている。

(2) 城内一の急階段

4 階は床から天井まで 4 メートル弱の高さがある。この階段は、2 本の柱の間に出隅に設置されているため、高い天井に対応するために 61°というとてつもなく急な角度で作られている。

それに対して、5 階の階段は 2 段にまたがっており、途中に踊り場が設けられている。5 階の天井は 4 階より 40 センチほど高いが、階段の長さが 2 段になっているため、それほど急勾配にする必要はなかった。

5 階

(1) 会議室

大天守の 5 階は、城攻めを受けた際の会議室として使用された可能性がある。屋根の破風にある窓や開口部からは、将軍たちが城内のあらゆる方角を見渡せたことだろう。この階の床の間は、実は屋根の大きな切妻の裏側にある。

(2) 柱のくぼみ目

20 世紀に入ってから、松本城は老朽化し、西に傾き始めていた。城の崩壊を恐れた地元の中学校長、

小林有也（1855-1914）は、1901年に松本城保存会を設立した。1903年から修理が始まり、1913年によやく完成した。大天守を縄で吊り上げて直したという伝説がある。5階北側の柱には、このロープの跡と思われる凹みが見られる。

1950年代に行われた大規模な解体・再建工事の報告書では、大天守を水平にするために、特定の柱の長さを戦略的に短くする方法がとられた可能性が指摘されている。